

日本共産党浦和区後援会ニュース
2018年5月号・No.83
浦和区北浦和3-14-16
TEL/FAX 048-833-4515
***** (部内資料) *****

うらわ宿

9条守れと6万人が結集

5・3憲法集会 in有明



「9条改憲NO! 平和と人権を! 5.3憲法集会」(主催:5・3憲法集会実行委員会)が5月3日(木・休)東京有明防災公園で行

党の共闘で、安倍政権もろとも、9条改憲を葬り去ろう」と訴えると、大きな歓声と拍手が沸き起こります。各地域・分野のト

われしました。この集会に浦和区後援会から参加した本太5丁目在住のK・Mさんに感想を寄せいただきました。

* * *

防災公園に着いたのは、30分前。雨上がりで足元は悪く、強風の中、すでに多くの人々が

まず確保。高田健氏の開会挨拶のあと、後ろを振り向くと、もう多くの人々がそこに立っています。「まだまだ集まる」そう思い座って聞きました。

最初のトーク、落合恵子さんは、強風に自らの髪と格闘しながら、「平和と命と人権を守る

ため抗うことは、私たちが生きていく証であり、誇りです」と力強く訴えます。政党挨拶では、立憲民主党の枝野氏をはじめ共産・民進・社民・自由(メッセージ)各党が9条を守る決意を表明し、日本共産党の志位委員長は、「市民と野

怒喝の窓 暴走チンピラ内閣炎上近し!

「胸さわぎもいい? ダメです野郎もダメです」



桑原崇寿

公園を埋め、さらに会場へ続く人波。舞台脇のベストポジションを

自由(メッセージ)各党が9条を守る決意を表明し、日本共産党の志位委員長は、「市民と野

うらわだいい

内閣支持率危険水域
シンゾウが痛い

(岸町 佐久間純)

南北首脳会談
無用の長物になった

―Jアラート、イージス・アショア
(前地 さび老)

川柳

最大のウミはあなただ安倍総理
セクハラは逃げられませんテープあり
うんざりと二階氏言っけど国民も

(岸町 だん吉)

「セクハラは無い」の処分出す麻生
記憶にないコトを修正する珍事

(前地・さび老)

五月句

見習いのバッチの取れて皐月晴れ
新緑の木陰に集う老人会
山吹の花びら浮かべ緋鯉来る

(前地三 S・M)

雑音のまじる電話や霏くもり
暖かやんばりかがる御殿毬
永き日のさざ波砂に尽きにけり

(本太一 Y・Y)

うらわ宿文芸

* 耳より情報 *

◆オール埼玉総行動1万5千人集会

6月3日(日)北浦和公園
10時開場/10時半開会
ゲストスピーチ:孫崎亨さん

◆輝け!日本国憲法のつどい

5月24日(木)埼玉会館小ホール
18時開場/18時半開会
講演「“決戦の年”安倍9条改憲を許さない!」

講師:小森陽一さん

主催:埼玉憲法会議

◆第22回埼玉リレーカフェ

5月19日(土)18時半~20時半
浦和コミュニティセンター第13集会室(パルコ10F)
講演とトーク「子どもに寄り添う“道徳”」

お話:渡辺雅之さん

参加費:300円

主催:埼玉リレーカフェ事務局

問い合わせ・申し込み:

saitama.r.cafe@gmail.com

浦和宿歴史探訪(その1)

宿場としては小規模な浦和宿

浦和宿は、上町(現在の常盤)、中町(同仲町、東仲町)、下町(同高砂、東高砂からなっていました。

一日10里近くを歩く当時の旅人にとって、日本橋から6里の浦和宿は休憩地であり、目指すは9里の上尾宿でした。浦和宿の旅籠15軒に対し上尾宿が41軒、隣の宿場でも蕨宿が23軒、大宮宿が25軒と比べても、小規模な宿場町だったと言えるでしょう。

一方、星野権兵衛家が代々務めた本陣は中仙道でも指折りの大規模なものでした。これは、この周辺が紀伊徳川家の鷹場であり、上町に浦和御

殿があったことと関係があるのでしょう。

ところが、本陣の経営は苦しいものでした。旅籠のように宿泊料金の決まりはなく、大名たちの懐次第、「ご祝儀」として渡され、時には羽織や反物、中には色紙一枚という例もあったとか。幕府から下賜金や補助もあるにはあったそうですが・・・。

これでは、広い敷地の設備や用人をかかえることは難しく、星野家は一度、幕府に本陣返上を願い出ますが認められず、明治までその職を解かれることはありませんでした。その後、星野家は、明治期に絶え緑区の大熊家に移築した表門以外は全て取り壊され、今は敷地の一部を仲町公園とし、明治天皇行在所の石碑があるのみとなっています。

(岸)

《ロク々想》

女人禁制議論の発端は舞鶴巡業であった。迅速かつ適切に救命処置にあたった女性の行動で地元の市長は一命をとりとめた。このときの行司の場内アナウンスに批判が集まり、理事長は謝罪し、救命に携わった女性に感謝した▼静岡巡業ではちびっ子相撲に女兒が参加できなかった。7年前の八百長事件では観客減少に陥り、女兒の参加を暗に認めただのである。昨年の本場所は満員御礼、将来の熱烈ファンになるちびっ子を侮ってはいけない▼昨今女性の各分野への進出は目覚ましい。山岳信仰でも山伏姿女性、能楽師、霞ヶ関GCでは女性に解放することになった。相撲界も女人禁制の呪縛から解放されるよう切望するとともに、女人禁制を貫くのであれば伝統に対する明確な基準、確固たる主義主張を示してほしいものだ。(幹)

憲法と私



さいたま市議会議員
とりうみ敏行

人生最悪の苦難の中で 得た平和への願い

安倍内閣がいよいよ本格的に「憲法改悪」に手を付けようとしている。改めて自分の憲法への思いをたどってみよう。

原点は若かったころの闘病生活の中にあった。私が本格的に憲法という「国の柱」に関心を寄せるようになったのは、19歳（1967年）の時に突然の病を得て彼の代々木病院に長期入院してからだったと思う。

折しも政治の舞台は第2次佐藤栄作内閣が誕生した年だった。佐藤内閣はその後、第3次改造内閣として1972年まで続いた。当時、沖縄返還、安保廃棄、ベトナム戦争反対の国民的運動が全国に広がっていた。入院した私は翌年3月ごろ手術をし、以後10か月間の寝たきりの闘病生活となった。寝たきりのベッドに毎日聞こえてきたのが、

「安保条約廃棄！アメリカはベトナムから手を引け！佐藤内閣打倒！」のシュプレコールだった。病室内はもとより何処へも逃げられないから結構勉強した。寝たきりの枕元には看護師さんに本箱をつくってもらった。何せ代々木病院だから、政治の勉強には事欠かなかった。沖縄とは、安保とは、ベトナムとは、佐藤内閣、自民党とは、日本共産党宣言とは、本を読むしか時間をつぶせなかった。

そしてたどり着いたのが日本共産党の存在と日本国憲法だった。「憲法9条は日本が犯した『侵略戦争』という痛苦の反省から生まれた世界の宝」「憲法は、油断をすればいつでも改悪勢力によって変えられてしまう」「憲法の民主条項の完全実施と遵守こそ国民が権力に立ち向かう武器である」そして「社会に復帰したら働く者の立場で憲法を守るたたかいに参加しよう！」と心に決めて、1970年7月日本共産党に入党した。

あれから48年。今、憲法が危ない！多くの人と手をつないで憲法を守らなければと決意を新たにしている。

2018年度 後援会総会行われる

4月28日（土）14時からコラボ21で「2018年度日本共産党浦和区後援会」総会が行われました。10ある地域の後援会代表や役員、25名以上の参加で、2017年度の総括、会計報告、2018年度の方針が話し合われ拍手で承認されました。来年4月のさいたま市議選まであと1年、各地で現職のとりうみ敏行候補を

さらに押し上げていくことを申し合わせました。また、新たに瀬ヶ崎後援会が辻山後援会長、佐々木副会長、馬場事務局長の体制でスタートしたことが報告され大きな拍手に包まれました。尚浦和区後援会としては、ひきつづき佐々木幹広副会長、田鹿事務局長、倉林、小川両事務局次長の役員体制

が承認されました。総会後懇親会が行われ、参加者それぞれの話や今年の後援会旅行の話など遅くまで活発に交流を深めました。



とりうみ市議（左から3人目）も参加しました

定数削減での4月の地方選 共産党10議席増

ミニ統一地方選というべき4月の中間地方選挙で、日本共産党は142人が当選し、前回比で4議席増、改選比で10議席増を獲得しました。定数が74もの大幅削減の中、議席占有率を7.67%から8.23%に引き上げました。

首長選挙でも京都府知事選ではこの40年間で最高の44%の得票を獲得し、大善戦。滋賀・近江八幡市長選では党の推薦候補が、千葉・市川市長選では「野党と市民の共同候補」が、大阪市豊中市、泉南市長選で自主支援の候補が、沖縄・与那原町長選で「オール沖縄」の候補が勝利しています。（5月2日付赤旗）



羽田増便で浦和上空飛行ルートに

数分に1機上空を飛ぶ

右の地図は、国土交通省が羽田空港への新飛行ルートの説明会で配布した資料です。緑区、浦和区、南区が飛行ルートになっています。国と国土交通省は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックをめざし、羽田空港の増便を計画しています。

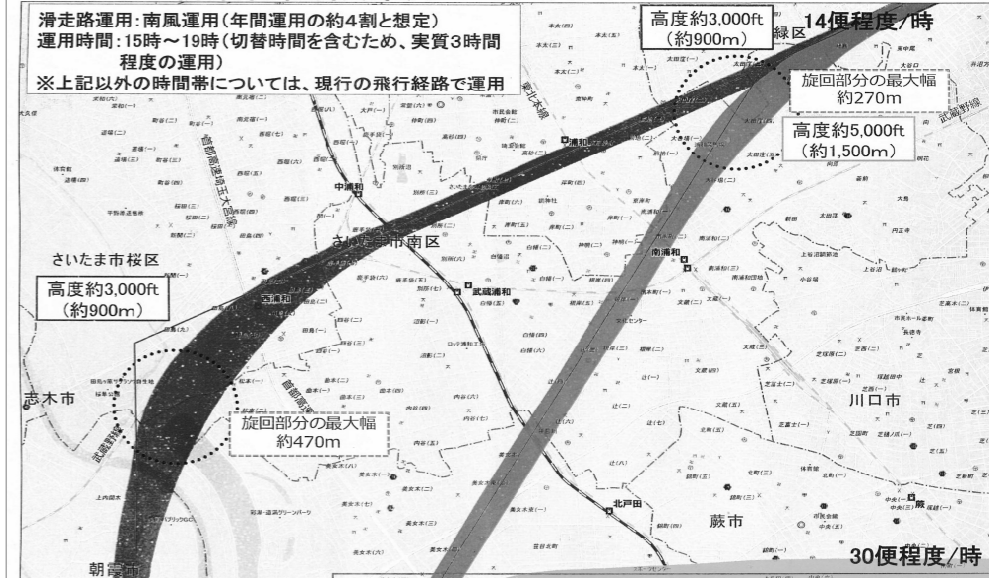
これによると、南風時、着陸態勢に入った航空機がA滑走路向け4分に1機、C滑走路向けに2分に1機飛来することです。

住宅密集地上空は危険

今までは「海から入り、海に出る」というのが原則で、市街地の密集した地域を飛ぶことは世界でもまれだといわれています。

最近、佐賀や沖縄で墜落事故や落下物事故が頻発しています。落下物などはほとんど海に落ちていたのです。いつ私たちの上から落下物が落ちてくるかわかりません。

南風時の新飛行経路(案)について



騒音問題も発生する可能性

国土交通省は想定される騒音のレベルをパソコンで聞かせてくれますが、実際にテスト飛行をしてみないと実感できません。

私たちの生命・財産を守るためにもこの問題に取り組んでいきましょう。

(年金者組合の新聞より転載)

今月号は日本国民救援会浦和支部の紹介です。支部長の倉林徹さんからお話をうかがいました。

日本国民救援会は1928年（昭和3年）4月7日に創立され、今年で90周年を迎えました。戦前は治安維持法の弾圧の嵐に抗してたたかい、戦後は弾圧や冤罪をはじめ人権侵害で苦しむ人々を励まし、力をあわせて奮闘してきました。救援会浦和支部は浦和ポスター貼り弾圧事件の起きた翌年の1984年の秋に結成されました。現在会員は105人。今年に創立記念日の4月7日に記念学習会を行いました。9月13日には「小林多喜二生誕115年一講座と朗読のつどい」を埼玉会館で開催します。香山リカさんの「多喜二と私と若者と」の講演があります。安倍9条

改憲が出される中、青年多喜二の戦前の不屈のたたかいを振り返りながら、「現在」を考えていきたいと思います。

また、最近見過ごせない権力による弾圧が発生しました。東京小金井市で起きた事件です。3月31日午前11時頃、小金井市緑町

創立90年 弾圧の嵐に抗して

日本国民救援会浦和支部

のマンションで「9条改憲NO! 3000万人署名」への協力をお願いして回っていた3人の市民が「住民の通報を受けた」という小金井警察署員によって連行されたのです。

警察はパトカー3台、警官10数名で取り囲み、まるで「凶悪犯罪」でも起きたかのようにして、3人を強制的に連行しました。警察は「住居侵入」だなどと言って

いますが、現場となった賃貸マンションはオートロックどころか、入口には扉一枚ついていない、開放的な建物です。3人はこのような建物の各戸のインターホンを鳴らし、署名に協力してもらえるかどうか、訪ねて歩いただけです。3人はその日のうちに身柄は釈放

されましたが、小金井署は事件として送検する構えです。憲法で保障された表現の自由

(21条)や請願権(16条)を攻撃する小金井署の妨害は民主主義の否定そのものであり、一切の道理はありません。3000万人署名活動への妨害です。一日も早い事件の解決のために皆さんのご支援をお願いするとともに、来年の統一地方選、参議院選挙にむけて、国民救援会をさらに大きくしていきたいと考えています。

(阿久津)